



ふれあいと助け合いのまち栗熊

天快さん

栗熊校区の人口
世帯数・・・843戸
人口・・・2,354人
男・・・1,126人
女・・・1,228人
(令和8年2月1日現在)

【変遷】

昭和22年 旧栗熊小学校の一部を借りて栗熊保育所として発足
昭和29年 給食、午後の保育開始
昭和39年 旧栗熊小学校跡に移転
昭和51年 新園舎落成



旧園舎

大熊 玲子さん(80代)
一列に並んだら、先生が肝油をみんなの口に入れてくれる。一番好きな時間だった。

吉田 富子さん(80代)
戦後間もない頃、講堂を間借りした場所が園舎だった。お昼を食べようと弁当箱を開けたら誰かに食べられて空っぽだった。食べ物がない時代だった。

ありがとう栗熊保育所

栗熊保育所は、80年近い歴史に終止符を打ち、令和8年4月から「公私連携型保育所」として民営化されます。運営は市から社会福祉法人「笑愛会」に移管され、施設の名前も「栗熊保育園スマはぴstation」に。園舎も現保育所の北側に移ります。地域住民にとって様々な思い出が詰まった栗熊保育所。その歴史や卒園生の記憶をたどりました。



学芸会 絵日傘踊り(昭和30年頃)

大林のぶまささん(50代)
よく泣いて手のかかる子供だったと聞いている。本人は覚えていないが。



旧小学校側から奥が園舎(昭和40年頃)

川池 郁子さん(70代)
今では考えられない！一人で飼う犬と通園。道草して着いたら、おやつ時間になっていた。

C・Uさん(20代)
スキムミルクと煮干しが苦手です。でっぴりかっぴり。



現園舎

十河智昭さん(40代)
夏は、園舎近くの大東川で川遊びをしたり、町営のひょうたんプールで泳ぐのが楽しかった。

4月カレンダー		あつまロン
1	水 健康相談(10:00~11:30)	10:00~無料
2	木	
3	金	
4	土 星の王爺さまの星観測 (コミュニティP 19:00~21:00)	韓国語
5	日	
6	月 休館日	
7	火 始業式(小・中学校) 入園式(保育園・こども園)	
8	水 入学式(中学校)	スマホ相談
9	木 入学式(小学校)	
10	金 農家相談(9:00~11:00) あいさつ運動(中学校)	
11	土	
12	日	
13	月 休館日	
14	火	
15	水	
16	木 にじいろカフェすまいる (10:00~11:30)	
17	金	
18	土	韓国語
19	日	
20	月 休館日	
21	火	
22	水 介護予防のための体操教室 (10:00~11:30)	ミニコンサート (13:30~14:30)
23	木	
24	金	
25	土	囲碁・将棋 スマホ相談
26	日	
27	月 休館日	
28	火	
29	水 休館日	
30	木	

《あつまロンギャラリー》

菅原 清さんの水彩画展示

《いっぷく》

朝の道ばたに小さな花が咲いていたり、上着を一枚減らして出かけてみたり。春を感じるこの頃です。まちで新入生や新入社員らしき人を見かけると、なんだかこちらまで背筋が伸びるような気がします。

交番より

大切な財産を守るために
特殊詐欺の手口を知って下さい。そして、騙されないで下さい。

SNS型投資詐欺

LINEなどのSNSを利用し、著名人を語ったり「絶対儲かる」をうたい文句に投資話を持ちかけて、嘘の投資をさせ、アプリ上で利益が出ているように見せかける。信用させて更なる投資を進め、更にお金を騙し取る詐欺である。

【注意ポイント】

- ・SNS上で勧誘
- ・絶対に儲かる
- ・振込先が個人口座

少額から始められます
安全ですか?
リスクはかなり低いです
これ詐欺かも!

人権とあなた(18)

認知症と向き合う
誰もがなり得る認知症について、一人ひとりが「自分ごと」として理解し、自分自身や家族が認知症であることを周囲に伝え、自分らしい暮らしを続けていくためにはどうするべきか、一緒に考えていきましょう。

◆健康相談
4月1日(水) 10時~11時半
栗熊コミュニティセンター
尿検査・体組成測定などお気軽にご相談ください。

◆星の王爺さまの星観測
4月4日(土) 19時~21時
栗熊コミュニティセンターP

◆オレンジマンのスマホ相談室
4月8日(水) 10時~11時半
4月25日(土) 10時~11時半
栗熊コミュニティセンター(あつまロン)

◆農家相談
4月10日(金) 9時~11時(受付)
綾歌市民総合センター

◆にじいろカフェすまいる
4月16日(木) 10時~11時半
栗熊コミュニティセンター(講座室) 予約不要・無料

◆介護予防のための体操教室
4月22日(水) 10時~11時半
栗熊コミュニティセンター

◆ミニコンサート
4月22日(水) 13時半~14時半
栗熊コミュニティセンター(あつまロン)
堀井秀敏さんギター弾き語りたんぽぽ

◆4月1日より使用済み小型家電の回収方法が変わりました。
栗熊コミュニティセンターで回収できるもの
回収ボックスの投入口(25cm×15cm以下)に入る小型家電のみ
上記サイズを超える小型家電
綾歌市民総合センターへお持ち込みください。

◆家電リサイクル法対象品目
テレビ、エアコン、洗濯機、衣類乾燥機、冷蔵庫・冷凍庫は対象外です。

栗熊コミュニティとつながる



職場の窓から



私の働く栗熊郵便局の背面は、ほぼ全面ガラス窓で、外がよく見えます。

広々と広がる畑や川、栗熊保育園と綾歌中学校、そしてその向こうには飯野山が綺麗に見え、仕事の合間に目に入るのどかな風景や、時折聞こえてくる保育園の子どもたちの可愛い声と中学生の元気な声に、ホッと心が癒されます。

(山本 尚美)

うちの自治会 ①

寺川自治会

寺川自治会は、水橋池周辺からさぬき新道沿いに位置し、16世帯で構成されています。多くの世帯が農業に携わっており、純農村地域です。

室町時代に創建された福成寺の系図には、六世の乗宗が弘田(今の寺川付近)に寺を建立したことが記されています。また、自治会内を寺川という川が南北に流れています。地名の由来に関係するかもしれません。

コロナ禍以降、自治会の定例活動は減少し、現在、隔月の常会と夏秋の公民館周辺の草刈りとなっています。

公民館の隣には鎮主神社があります。祭神は天照大御神の孫にあたるアメノニギノミコトです。ニギノミコトは、三種の神器を携え、高千穂に降り立ちます(天孫降臨)。このことから格式が高い神様とされています。

氏は寺川地区住民で、春と秋の彼岸には神事を催し、守っています。歴史ある文化を守ることで、地域の人々のつながりも深めていきたいです。



2月15日に「シール交換会」を開催しました。巷で大流行しているシールだけあって、3歳〜43歳までの男女36人と同伴の保護者で大にぎわいでした。まず最初にビンゴゲームでなかなか手に入らない貴重なシールをゲット。その後は、ぶつくりした透明なシールや、プニプニしたおしりがついたもの、人気キャラクターシールがパンパンにつまった自分のシール帳を持ち寄り、一対一の対面でシール交換! 知らない子供同士で「これは?」「いいよ」みたいな会話が交渉成立すると大喜びでシールを貼り替えます。子どもにも社会性を育むという意味でも貴重な経験になったのではないのでしょうか。

日頃シールを買うために東奔西走し、行列に並んでいる保護者の方からも感謝されました。

シール交換会

スポーツ育成部



生涯学習クラブ 紹介⑩

親子体操ダンスクラブ



仲良しママ友と元気なこどもたちが集まってワイワイ楽しく活動しています。

みんなで購入した大きなエアマットを使用して、仲間と体力作りをすることにしました。

YouTube で検索して好きなダンスを踊ったり、親が補助してアクロバットを練習したりします。時にはおしゃべりしたり、遊んだりして終わることもありますが、その時間も大切に楽しんでいます。

1月18日丸亀市PTA綱引き大会が丸亀市民体育館で開催されました。

今年に参加チーム総当たりのリーグ戦を行い、綾歌中PTAと栗熊小PTAが全勝対決となり、綾歌中PTAが優勝、栗熊小PTAが準優勝と素晴らしい結果を残すことが出来ました。

保護者同士のチームワークも良く親睦を図るとともに良い汗をかくことが出来ました。



綱引き大会がんばりました

2月20日、広報誌やホームページおよびSNS等についての出前講座と意見交換会を栗熊コミュニティセンターで開催しました。当研修会には岡田、富熊、栗熊の3コミュニティから広報担当者21人(栗熊からは10人)の参加がありました。

出前講座では「広報まるがめ」担当の市広報戦略室・大塚さんから、読まれる広報誌の作り方や個人情報、肖像権、著作権のポイント等について説明いただきました。

その後、各コミュニティでの情報発信の現況や課題についての話し合いが行われ、「さんさん快天」やホームページ等の作成にも参考になる事例もあり、有意義な意見交換会となりました。



文化広報部

中学校

「駅伝大会」

1月17日に丸亀市民球場にて丸亀市中学校運動部活動対抗駅伝競走大会が実施されました。綾歌綾歌中学校の結果としては、バスケットボール部が男女とも上位に入賞、男子ソフトテニス部も個人で上位入賞しました。各中学校の運動部のメンバーが、学校の団結力や部活動のチームワークを見せようと一生懸命に走り、応援で大いに盛り上がりました。



健康講座

愛育班・保健福祉部

2月17日、丸亀市健康課の小野栄養士と山本保健師より、腎臓に優しい生活習慣と様々な減塩のポイントを、参加者29人とともに学びました。

塩分を多く取ると、水分を取りがちになり、腎臓の調整機能が追いつかず、過剰な負担を与えることとなります。腎臓に優しい毎日を送りましょう。

